

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホーム ポランの家		
所在地	北海道余市郡余市町大川町8丁目11番地 (電話) 0135-22-1577		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 4月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 15人 非常勤 6人 常勤換算	16.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	35,000 円	
			冬期間	5,000 円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 821 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院 小嶋病院 林病院 森川歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二つのユニットを有しており一方は比較的アクティブ、他方はメンタルケアが必要など、利用者の状況は異なりますが、管理者始めスタッフは、ケアマッピングを重視しながら、利用者に対して一番ベストなケアへの配慮をしています。ホーム長(管理者)は常に現状を超えた理想のケアサービスの追求を考慮し、その実現に向けた努力が繰り返されています。特に利用者への言葉掛けでは、途切れることのない会話や心の交流の啓発のためスタッフすべてのスキルアップに努めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で取り組みが期待された「評価の意義の理解と活用」では、自己評価を全てのスタッフに提案し、個々の意識改革が行なわれていますが、二つのユニットの自己評価が一本に纏められたため、ユニットごとの特色ある取り組みが鮮明ではありません。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全てのスタッフが行なうべく個々に配布して実施されています。これは日頃のサービス提供を省みる良いきっかけとなっています。ユニットごとの特色ある取り組みを鮮明にするための取り組みに期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員会を構成するメンバーと会議議事録の内容から、重厚かつ深みのある会議内容を知ることができます。グループホームへの理解はもとより認知症に係わる専門的な話題など、また、熱心な質疑応答が交わされ、ホームのサービスの質の向上に役立っているものと考えます。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会の設置はされていませんが、家族の意見や要望などを聞き取る手法を取っています。相談室はホーム長室を兼ねていますが、落ち着いた雰囲気で行なわれています。また、家族が抱く意見などを把握するため、毎年1回アンケート調査を実施して、ホーム運営とサービスの質の向上に反映させています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会などの行事には、利用者の状況により参加できない場合もありますが、地域の環境美化運動には参加して、住民の方々と一緒にゴミ拾いや草刈りなど、奉仕活動を通して交流が図られています。ホームでは、定例行事による外出も行なわれていますが、日常的な散歩などの外出に重点を置きながら、近隣住民との親しい会話を楽しんでいます。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会にあって、グループホームの存在意義を十分認識するとともに、利用者が日々の暮らしを地域と言う器の中でどのように継続されるかを常に念頭に置き、理念の具体的な実践に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ間では日常的なカンファレンスの中で、理念の実践に携わる反省などを繰り返し、共有することに取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などの参加には、利用者の状況により困難性がありますが、環境美化運動に参加し町内のゴミ拾い、草刈りなどの奉仕活動を通して地域の方々との交流を図っています。また、散歩など外出を多く取り入れ、地域での交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は全てのスタッフに配布しながら個々に評価を行なうなど、評価の意義及び活用への関心は高いものがありますが、二つのユニットの成果が同じもので、ユニット毎の取り組みの具体的な内容が鮮明ではありません。	○	利用者の状況やスタッフの経験など、自己評価への対応はスタッフ間、またユニット間で微妙な違いが生じるものと考えます。今後の自己評価作成に当たっては、ユニット毎で作成し、利用者を支えるより具体的な改善に取り組まれるよう期待します。

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会を構成するメンバーは、家族の代表、町内の関係者、町担当者に加え地域の婦人部長、元児童・民生委員、老健施設の事務局長など各分野の方々により、会議が進められています。ホームの状況もより具体的な報告と質疑が繰り返されるなど、内容が深く、サービスの質の向上に向けた取り組みが行なわれています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は熱心にホーム運営に参加されアドバイスをいただいています。また、ホーム長は町などが行う講習会などに講師として参加するなど、行政と一体となった取り組みも行なわれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしや健康状態は、機関紙「ポランの家」の家族通信欄を利用して家族にお知らせしています。また、写真も同封して利用者の笑顔を家族のもとに届けています。体調が変化した場合は、看護師から専門的に報告がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長室は、家族などが自由に入出りできる相談室となっています。家族にとっては、利用者への相談ごとに限らず家族、家庭を含めた相談も気軽に話せるなど好評です。毎年1回、家族アンケートを実施し、意見の聴取に努めています。苦情処理のシステムも充実しており、素早い対応でサービスの向上に役立っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの退職に際しては、利用者が抱く喪失感に配慮し、「さよなら」の挨拶はせず、それとなくホームから去ってもらい、チーフを始めスタッフ全員でカバーしています。退職しても度々ホームを訪れるなど、利用者との和気あいあいの空気が伺えます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの年齢構成ではバランスが良くとれており、経験が上手に伝わるなどホーム内でのスキルアップが日常的に行なわれています。ホーム長はスタッフのスーパーバイザーへの養成を念頭に、介護福祉士など資格取得の支援をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のケアマネージャー協議会では、各グループホームからの参加もあり、共通した問題への話し合いが持たれています。また、町内のほかの業者が視察研修に訪れています。ホーム長はスタッフの見聞をより広めるとのポリシーのもと、旭川方面まで出張させて研修を行なっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症高齢者は環境への適応力が特に低下しており、それに対応して、一番最初に来訪した際は、スタッフの笑顔で迎えること、更には入居後の一週間を最大の気配りをして、共感ある暮らしの中で利用者が安心感に浸れるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや暮らし方に、スタッフは常に共感しながらゆったりとした雰囲気で支援しています。このホームでは利用者との会話の中で「良かったですね・・・」の言葉を大切にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や言葉の端はしの中で、暮らしの中の希望、思いを把握できるよう、スタッフのスキルアップに努めています。何気ない「つぶやき」など、傾聴への気配りも日常的に行なわれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	このホームでは、毎日のカンファレンスの中から、また家族の意見を参考に援助の方法や変更の是非を検討して介護計画が作られています。特に日常のモニタリング（トピックスを含め）の記載方法を従来の縦並びから横並びに変え、介護計画に反映できる連動可能なシステムを独自に考え採用しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3カ月の期間で見直しの是非を検討しています。また、利用者の急変に対応するためスタッフとの合意形成や看護師との連携、また、かかりつけ医などとの意見交換は欠かせないものとしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じて、入退院の送迎、選挙への対応や利用者の希望する特別な外出など、ホームの有する多機能性を柔軟に活用して支援が行なわれています。また、利用者及び家族以外にも認知症に係わる相談にも対応するなど、多岐にわたる要望に応える体制が作られています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用されているかかりつけ医は、利用者本人の状況など十分に把握しており、ホームでも信頼関係を密にしながら継続、支援に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の方向性と看取り看護の指針は整備されており、家族の方々とも話し合われています。これまで実際の看取りにいたる事例はありませんが、その場合もスタッフ全体で共有可能な介護計画を作るなど、家族の同意を得ながら進めることとしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	このホームでは、基本理念である「尊厳性」とプライバシーの保護を特に堅持したスタッフへの指導が行きわたっています。言葉掛け、失禁時などへの素早い対応など、細やかな配慮が徹底された支援が行なわれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、利用者本位の生活がどのようなものを、カンファレンスで話し合い、共有することとしています。利用者との会話の中では途絶えることない話法で、より多くの情報を得るなど、一人ひとりのペースに合わせた暮らしへの支援が日々行なわれています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一般の家庭と同様に、利用者、スタッフがともに作業ができる「台所」をホームの中心と考え、調理へのこだわりや農作業のエピソードなど、会話が弾む食事作りを楽しんでいます。食事中もスタッフが常に声掛けを行なうなど、楽しい時間がゆったりと過ぎて行きます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は一応の取り決めがありますが、利用者の希望により、自由な入浴への支援が行なわれています。習慣により夜間入浴希望も可能にしています。失禁などへの迅速な対応に全身シャワーの器具も備えるなど気配りをしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中には、漁師出身の「包丁砥ぎ名人」、農家出身の「スイカ造り名人」など特技を持っている利用者があり、昔取った杵柄を存分に発揮してもらっています。これまでの生活歴を参考に、楽しみごと、気晴らしとなることなど、試行しながら創意工夫を重ねています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは、行事化された外出ではなく日常的な外出を大切と考え実行しています。そこには地域の風土、人々と触れ合う接点があり、ごく自然な挨拶も生まれています。利用者の希望を取り入れた菖蒲園の花見、桜並木の散策などのほか誕生日のお祝いには外食を楽しんでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のほかは全く施錠はしていません。帰宅願望の利用者には何回でも外出に付き添っています。問題行動にはそれなりの理由が内在していることをスタッフは把握しながら、拘束しない気配り支援が続けられています。		

余市町 グループホーム ポランの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災規定に沿うマニュアルも整備されています。消防署の協力を得ながら夜間の避難訓練も実施されています。地域の方々の協力体制も構築されつつあり、緊急時の避難場所として近隣の寺院にも要請予定です。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の管理は利用者一人ひとりの状態により差はありますが、800cc~1,000ccを摂取できるよう支援しています。また、食事などは1,600キロカロリーを上限と考え、美味しく食べていただき、話題を引き出すメニュー作りに努めて支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に清潔感があり、共用空間の廊下、リビングなどには、それとなく飾られた花々、利用者の作品、スタッフのパッチワークなどの装飾が、利用者をはじめ訪れる家族やスタッフに安らぎを与えています。食堂に面する台所も動きやすく、利用者も自由に入って作業ができる空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具、調度品が並び利用者が安心して暮らせる雰囲気があります。収納スペースもプライバシーと使いやすさに配慮した天井からのスライドカーテンが施されています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。